

平成 29 年度まちづくり座談会における質問・要望事項と回答

■荒砥地区：8月3日（木）午後7時30分～9時 参加者数 43名

Q. 現在の町の介護施設は足りているのか。また、その利用状況はどうなっているのか。

A. 町では現在、約 900 人の方が介護認定を受けられており、そのうち 9 割以上の方が何らかのサービスを受けられている。

サービスについては「施設サービス」と「在宅サービス」があり、在宅サービスについてはケアマネジャーがサービス利用のプランを立てる段階で、希望のサービスが利用できない状況にはなっていない。

また、施設サービスについては約 200 名の方が利用しているが、申請中の方も約 100 名いる。ただし、必要な数だけ施設を増やしてしまえば財政的な負担も発生するので、そのような中でサービスの適正な量なども考えながら対応していきたいと考えている。

Q. 婚活について、適齢期を過ぎた方への支援や企画などもしていかないと、将来的に一人暮らし世帯が増えてしまう。対策をお願いしたい。

A. 婚活事業については、人口の減少をできるだけ緩やかに、そして子どもの数をできるだけ減らさないというねらいで取り組んでいる。その中で、適齢期を過ぎた方への支援については、その年代の方々がどのような支援を求めているのかをお聞きする機会が必要だと思う。

また、単なる出会いの場ということではなく、男性及び女性のスキルアップや結婚に対する考え方についての講座なども各地でされているようなので、婚活サポート委員会に話をさせていただきながら、婚活の取り組みに対する支援を行っていきたい。

Q. にこぼーとや学童保育はボランティアとして参加できるのか。

A. 原則としては、子どもとその保護者が利用することになっている。ボランティアが必要な状況になっているか、また、ボランティアをしていただくために必要な研修があるかなどについて、委託先である町社会福祉協議会に確認させていただく。

Q. 日ごろから心持ち良い子育てをしていくためには、心を育てることが大切だと思う。

A. 心、そして命を大切にすることについては非常に大事なことであるということで、今後は心を大事にするための活動も考えていく必要があると思う。

Q. スポ少や部活動の現場において、今の時代にそぐわない指導方法が見られるという声があった。

A. 昨年と今年で1件ずつそのような話が合った。昨年については外部指導者だったが、直接来庁していただき指導させていただいた。また、今年については顧問による少しきつい指導ということで、こちらも教育委員会側から指導させていただいた。

なお、今後についても学校側としっかり連携をとり、同じようなことがないように努めていきたい。

Q. 小中学校の統合から2年が経過したが、実態としてはどのような感じか。

A. 子どもたちの様子を見ると、表情も明るく非常に立派で、統合から3年目とは思えないくらい順調に学校生活を送っている。ただし、白鷹中学校については、不登校等の生徒の数が昨年は少し多かったように感じる。この件については町校長会でも大きな課題として取り上げ、対象生徒については小学校時代までさかのぼって調査し、指導していこうと努めている。

荒砥小学校についても、地域の皆さんの見守りもあり順調にきている。ただし、やはり二百数十人が一緒に集うということで多少の人間トラブル等があるということをご理解いただきたい。

Q. 子どもたちが部活動やスポ少の練習日が盛りだくさんになっており、それに加えて学校行事もあるため、地域の行事などになかなか参加できていない。子どもたちに休養日を与えてほしい。

A. 現在の白鷹中学校ほど部活動の休みを徹底してとっている学校はないと認識している。しかし、学校としての部活動は日曜日と水曜日は休みということにしているが、そこにスポ少の活動が入ることで休めないという実態があると認識している。ただし、この件については保護者の要望もあると聞いている。それでも、行き過ぎた活動は子どもの心身の健康に百害あって一利なしなので、学校側やスポ少側と話をさせていただきたいと思う。

Q. 各地区のレクリエーション大会においては、それぞれに課題を抱えていると思うので、町で一本化することはできないか。また、学校側で中学生がたくさん参加できるような体制を整えてもらいたい。

A. 生徒たちを地域の活動に参加させようということは、統合した年からの中学校の方針

である。地域によってではあるが、中学生の参加も増えてきたという話を聞いているので、なお一層中学生の参加を呼び掛けていきたいと思う。

Q. 春から冬にかけて、一年を通した魅力ある観光をつくれないうだろうか。

A. 町では観光交流推進計画に沿って事業を進めている。その中には「日本の紅（あか）をつくる町」の推進と、「まるごと白鷹町」ということで白鷹町の観光拠点施設等を回っていただくような施策を続けている。そして、「観光4シーズン化」ということで、『春はサクラ、夏はベニバナ、秋はアユ、冬は隠れ蕎麦屋の里しらたかへ』というキャッチフレーズを長らく掲げており、それで通年型の観光を目指したいと考えている。

また、このたび観光協会が荒砥駅前交流施設へ移ったということで、ぜひコミュニティセンターと町と観光協会とで一緒になって観光の推進を進めていきたいと考えている。

なお、観光については皆さんが主役なので、例えば名物づくりであるとしても一緒になって考えたり支援をさせていただきたいと思っているので、何かあれば町に相談いただきたい。

Q. 八乙女八幡神社にはサクラやアジサイの季節に多くの観光客が訪れることから、トイレの整備をお願いしたい。

A. トイレの改修については全部を町で行うというわけにはいかず、補助制度となれば町民の皆さんの負担も出てくるので、それも踏まえてご相談いただきながら観光や地域づくりの視点で協議をさせていただきたい。

Q. 高齢化の中で税外負担が次第に大きくなってきている。しかし、その中で自分だけお金を出せないとは言いにくい現状がある。高齢者に優しい地域づくりをしていくためにも、お金を集める側からも付度していただけると助かる。

A. 税外負担については、第一義的には各団体や組織の中でそれぞれに設立の目的があり、会費や協力金を徴収し活動いただいているものだということで、まずはそれぞれの団体で判断していただくことになるかと思う。

また、現在の状況等を踏まえた対応も必要だということで、対象の目的が終了したのかどうか、あるいは活動の内容に応じて必要な協力金等はいくらが妥当なのかについて、組織の中で議論をいただき、できるだけ多くなならないような検討を行っていく必要があるのではないかと思う。時代の背景や活動の目的も変化してきていることもあるので、それらの状況等も踏まえて対応いただきたい。

なお、町として担うべきものについては、予算措置、予算の確保をもって対応していき

たいと考えているのでご理解いただきたい。